

第50回全日本大学駅伝

過去最高の8位入賞 シード権奪取!

2区・荻久保が区間賞、最終8区・金子が2人抜き——箱根駅伝に弾み



10人抜きを快走で区間賞を獲得した荻久保一歩(左)がゴールを駆け抜け、箱根駅伝に弾み。

第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会は11月4日、愛知県名古屋市の熱田神宮から三重伊勢市の伊弉神宮までの男子駅伝60.8キロで行われた。2年連続4回目の出場となった城西大学は過去最高の8位入賞を果たすとともに、今年から8位以内となったシード権を奪取した。荻久保寛也(経営3)は2区で区間賞を獲得、最終8区の金子元氣(経営4)は2人抜きを快走し、シード権を奪取した。城西大学は過去最高の8位入賞を果たすとともに、今年から8位以内となったシード権を奪取した。荻久保寛也(経営3)は2区で区間賞を獲得、最終8区の金子元氣(経営4)は2人抜きを快走し、シード権を奪取した。

総合8位(5時間20分29秒)

1区(9.5 ^{km})	西嶋雄伸(経営3)	28分02秒(区間16位)
2区(11.1 ^{km})	荻久保寛也(経営3)	32分08秒(区間1位)
3区(11.9 ^{km})	大里凌央(経営2)	35分34秒(区間12位)
4区(11.8 ^{km})	服部潤哉(経営4)	35分52秒(区間12位)
5区(12.4 ^{km})	中原佑仁(経営3)	37分29秒(区間12位)
6区(12.8 ^{km})	峯下拓斗(経営4)	39分02秒(区間14位)
7区(17.6 ^{km})	鈴木勝彦(経営4)	53分05秒(区間5位)
8区(19.7 ^{km})	金子元氣(経営4)	59分17秒(区間5位)

3区の大里凌央(経営2)は6区の大里凌央(経営2)と大駅伝初デビュー。一時はシード圏外の13位まで順位を下げたが、7区の鈴木勝彦(経営4)が3人抜きを快走し、金子元氣(経営4)が2人抜きを快走し、シード権を奪取した。城西大学は過去最高の8位入賞を果たすとともに、今年から8位以内となったシード権を奪取した。

総合8位 出雲駅伝 初の入賞果たす

最終6区は4チームが数秒差で争う

第30回出雲全日本大学選抜駅伝走は10月8日、島根県出雲市で開かれた。3年ぶり4回目の出場となった男子駅伝部は、総合8位という結果を挙げた。1区は荻久保寛也(経営3)が、最終先頭集団でレースを展開。各校エース級のランナーが、スタートからペースを上げていく中、必死の形相で粘りつづけて3位の好位置で2区の出雲雄伸(経営3)にバトンをついた。前半3区に調子の良いスピードランナーを並べ、上位でレースを組み立てる作戦を採った。西嶋雄伸(経営3)は区間賞を獲得し、総合8位という結果を挙げた。



初の入賞ゴールをする6区・服部潤哉

総合8位(2時間15分11秒)

1区(8.0 ^{km})	荻久保寛也(経営3)	23分28秒(区間3位)
2区(5.8 ^{km})	西嶋雄伸(経営3)	17分09秒(区間12位)
3区(8.5 ^{km})	鈴木勝彦(経営4)	26分01秒(区間9位)
4区(6.2 ^{km})	中島公平(経営4)	18分31秒(区間8位)
5区(6.4 ^{km})	山本 嵐(経営1)	19分14秒(区間9位)
6区(10.2 ^{km})	服部潤哉(経営4)	30分48秒(区間7位)

最終6区は5チームの争いとなり、5位だった帝京大学は約1秒差、7位の立命館大学は約4秒の僅差だった。

1区・西嶋雄伸(経営3)は2区以降の選手に助けられても、区間賞を獲得した。今回も課題が多く残る駅伝になった。次の箱根駅伝では、走りができるよう頑張りまわす。



区間5位の快走で3人抜きをチームを10位に押し上げた鈴木一歩(左)がゴールを駆け抜け、箱根駅伝に弾み。

後半3区間で意地見せるも14位 小笠原が4人抜きの力走、三ツ木は区間6位



4人抜きの快走で、大笠原晴季(左)がゴールを駆け抜け、箱根駅伝に弾み。

1区はエースを主将の上田未奈(経済4)。先頭集団でレースを展開。最後まで粘り、4位で区間の区間賞を獲得。2区は荻久保寛也(経営3)が区間賞を獲得。3区は服部潤哉(経営4)が区間賞を獲得。4区は鈴木勝彦(経営4)が区間賞を獲得。5区は金子元氣(経営4)が区間賞を獲得。6区は三ツ木桃香(現代政策3)が区間賞を獲得。7区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。8区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。

総合14位(2時間11分50秒)

1区(6.4 ^{km})	上田未奈(経済4)	21分09秒(区間4位)
2区(5.6 ^{km})	今さつき(経営3)	19分24秒(区間18位)
3区(6.8 ^{km})	岡村未歩(現代政策2)	24分55秒(区間21位)
4区(4.8 ^{km})	佐光菜々子(医療薬学3)	16分43秒(区間14位)
5区(9.2 ^{km})	小笠原晴季(経営3)	31分42秒(区間12位)
6区(5.2 ^{km})	三ツ木桃香(現代政策3)	17分57秒(区間6位)

2区・今さつき(経営3)は1区はエースを主将の上田未奈(経済4)が区間賞を獲得。3区は岡村未歩(現代政策2)が区間賞を獲得。4区は佐光菜々子(医療薬学3)が区間賞を獲得。5区は小笠原晴季(経営3)が区間賞を獲得。6区は三ツ木桃香(現代政策3)が区間賞を獲得。7区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。8区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。

エース上田が区間賞の快走 2区・佐光、駅伝デビューの4区・今も健闘



区間賞の快走で、上田未奈(左)がゴールを駆け抜け、箱根駅伝に弾み。

2区・佐光(経営3)は1区はエースを主将の上田未奈(経済4)が区間賞を獲得。3区は岡村未歩(現代政策2)が区間賞を獲得。4区は佐光菜々子(医療薬学3)が区間賞を獲得。5区は小笠原晴季(経営3)が区間賞を獲得。6区は三ツ木桃香(現代政策3)が区間賞を獲得。7区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。8区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。

総合8位入賞も「悔しい」(赤羽監督)

1区(4.8 ^{km})	岡村未歩(現代政策2)	16分16秒(区間13位)
2区(3.3 ^{km})	佐光菜々子(医療薬学3)	11分05秒(区間5位)
3区(5.6 ^{km})	小笠原晴季(経営3)	19分21秒(区間8位)
4区(3.9 ^{km})	今さつき(経営3)	13分14秒(区間5位)
5区(6.7 ^{km})	三ツ木桃香(現代政策3)	23分31秒(区間10位)
6区(5.6 ^{km})	上田未奈(経済4)	18分44秒(区間1位)



4区・今から5区・三ツ木へ弾み

城西大学のスポーツをいっしょに盛り上げよう! Jスポ記者、大募集!

城西大学スポーツ(Jスポ)では記者を募集しています。学内の公認サークルである城西大学スポーツ編集部は、強豪団体による各種大会での活躍ぶりを伝えるだけでなく、スポーツの部活やサークルに打ち込むクラスメートたちの活動ぶりも紹介しています。新聞記者経験のある職員が取材や書き方を指導。定期的な編集会議や懇親会を開いて、サークル内の親睦も図っています。記事だけでなく、写真やイラスト、漫画などでも協力してくれる学生も歓迎します。スポーツに興味があり、城西大学のスポーツを盛り上げたいと思っている学生の参加を待っています。

城西大学のスポーツをいっしょに盛り上げよう!

連絡はこちらまで j-sports@josai.ac.jp

取材スタッフ	アドバイザー
松岡 遼史(薬学部6年)	知見寺美紀(2014年度卒業)
本多 里菜(薬学部5年)	吉田 美咲(2015年度卒業)
傳法谷佑樹(現代政策学部2年)	高橋 龍美(2017年度卒業)
西村健太郎(薬学部6年)	
君島 麻未(経営学部2年)	
巻橋 仁美(薬学部6年)	
宝蔵寺佑樹(現代政策学部2年)	
石川 慧(現代政策学部2年)	
西村 太郎(現代政策学部2年)	

全日本大学 女子駅伝

第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は10月28日、宮城県仙台市の旧・仙居陸上競技場(仙居市役所前広場の6区間)で行われ、女子駅伝部は14位だった。12月30日の全日本大学選抜駅伝走選手権大会(山形県)への出場権を争う。14位という結果は、12月30日の全日本大学選抜駅伝走選手権大会(山形県)への出場権を争う。14位という結果は、12月30日の全日本大学選抜駅伝走選手権大会(山形県)への出場権を争う。

1区はエースを主将の上田未奈(経済4)。先頭集団でレースを展開。最後まで粘り、4位で区間の区間賞を獲得。2区は荻久保寛也(経営3)が区間賞を獲得。3区は服部潤哉(経営4)が区間賞を獲得。4区は鈴木勝彦(経営4)が区間賞を獲得。5区は金子元氣(経営4)が区間賞を獲得。6区は三ツ木桃香(現代政策3)が区間賞を獲得。7区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。8区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。

関東大学 女子駅伝

第24回関東大学女子駅伝対校選手権大会は9月30日、千葉県印西市の千葉ニュータウン周回コース(6区間)29.9キロで行われた。女子駅伝部は20位の成績で、区間賞を獲得。4区は岡村未歩(現代政策2)が区間賞を獲得。5区は小笠原晴季(経営3)が区間賞を獲得。6区は三ツ木桃香(現代政策3)が区間賞を獲得。7区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。8区は山本嵐(経営1)が区間賞を獲得。

スポーツ栄養サポートサークル「ANSWER」誕生 食でスポーツを支える

メンバー40人 代表は女子駅伝部選手・佐光さん

「食でスポーツを支える」をコンセプトに、城西大学医療薬学部に所属する学生が中心となり、城西大学スポーツ栄養サポートサークル「ANSWER」が誕生した。メンバーは約40人。代表は女子駅伝部選手・佐光菜々子(経営3)さん。佐光さんは、今年度の代表選手として、女子駅伝部で活躍している。ANSWERは、城西大学のスポーツを支えるために活動している。食事の栄養管理や、トレーニングのサポートなどを行う。また、城西大学のスポーツを支えるために活動している。



「鉄分補給プロジェクト」を主催したメンバーたち

インカレ制覇の夢は後輩へ

女子ソフトボール部

第53回全日本大学女子ソフトボール選手権大会(日本インカレ)は8月31日から9月2日まで石川県金沢市で開かれた。16回目の出場となった女子ソフトボール部は、1回戦で大阪青山学院大学に4-1で勝利したが、2回戦で優勝した日本体育大学に2-11で敗れ、チーム目標としていた日本インカレ制覇はならなかった。日本体育大学戦は、序盤に相手の満塁本塁打などで大量失点して苦しい展開。終盤に2点を返して反撃したが、試合の流れをつかむことが出来なかった。

富沢真樹主将(経営4)は「私たちはこのインカレのために大学生活の半分以上を費やしてきた。チームメイトや応援の皆様の声援に何度も背中を押され、とても感謝している。2回戦で残念ながら敗れてしまったが、最終回の追い上げは城西の選手へ、最終回の追い上げは城西の選手へ、熱い戦いだったことを誇りに思っています。インカレでの悔しい思いは、後輩に託します。後輩の日本一に向けて全力でサポートしていきます」と述べた。

新チームの主将は三浦季(経営3)に決まった。三浦は日本一になるために全員が高い意識で練習に臨んでいく必要がある。勝つために貪欲に前向きになれるチームにした」と決意を語った。【君島麻衣】



女子ソフトボール部選手権大会

「日本一になるため貪欲に前向きに」(三浦季)

惜敗続き1部リーグ復帰かなわず

硬式野球部

秋季リーグは5位で終わる

首都大学野球2部リーグの秋季リーグは4勝6敗の5位で終了、1部リーグ復帰は今年もかなわなかった。

優勝は春季リーグ、3-1で行った明星大学だった。10月14日に行われた今季の明星大学戦では6点を取られ、4点差で迎えた最終回に代打の堀俊輔(経営1)の3ランで1点差に詰め寄ったが敗戦した。今季10試合中、後半3試合は1点差で勝てない。【宇崎寺佑樹】

の負けゲームと悔しい試合が多かった。リーグ2位だった獨協大学戦との最終戦も3-3の惜敗だった。

投手陣は落合大地(経営3)、金城知之(経営3)、田中大稀(経営3)、松永健二(経営3)、唐沢裕貴(経営2)、北川裕登(経営2)、平野サヒ(経営3)が秋季リーグのマウンドに上がった。新チームとなる投手、野手ともに多くの選手がリーグ戦を経験している。2部リーグは実力が拮抗しており、来年の春季リーグでの優勝、1部復帰は決して夢ではない。【宇崎寺佑樹】



高美学園大学戦の先発イレブン

サッカー部

埼玉県1部リーグは3位 王座奪還ならず

埼玉県1部リーグの後期は9月2日、第8節・文教大学戦で始まった。1-0で競り勝ち、続く9月9日の第9節の獨協大学戦も4-1と快勝した。9月16日の第10節の芝浦工業大学戦は9-0と大勝利し、快進撃が続いた。

さらに9月23日の第11節・埼玉大学戦も2-0で勝利し、続く9月30日の第12節・埼玉工業大学戦も2-1で競り勝った。第6節から波に乗った城西大学サッカー部はリーグ戦7連勝を飾って勝ち点を20とした。

そして迎えた10月7日の第13節・尚美学園大学戦は上位の直接対決となった。試合は互いに譲らず1-1の引き分けとなり、連勝とはならなかった。続く10月14日の最終第14節の平成国際大学戦も1-1の引き分けとなり、この結果、9勝4分1敗で勝ち点31となり、リーグ第3位となった。

猿山監督は「後期は5勝2分と一度も負けることはなかったが、最後の2戦を引き分けたことが痛かった。優勝した尚美学園大学に前・後期とも引き分け、これを勝ち越せることができず、詰め切ることができなかった。ただ、トータル1敗、リーグ1位の失点数GK林石陸(現代政策3)を中心に粘り強い守備には大きな手応えをつかむことができた。来年少こそは王座奪還を目指し、関東大学サッカーリーグ2部復帰をしたい」と語った。【傅法谷佑樹】

2020年秋完成へ新グラウンド着工



「下川原グラウンド」の完成イメージ

サッカー場、ソフトボール場、ランニングコース備える

大学の北側に約2.0ヘクタールの敷地面積は約5万5000平方メートル。整備されるのはサッカー場とソフトボール場、ランニングコース、管理施設、夜間照明、駐車場など。鉄骨造りの階建て延べ床面積約2000平方メートルの管理施設には、更衣室やシャワー室、監視室、ミーティングルームなどを備える。

現地で工事の安全を祈願して地盤を起工式が行われた。サッカー場とソフトボール場の完成を目標とする。2020年秋の完成を目標とする。2020年秋の完成を目標とする。2020年秋の完成を目標とする。

おくすり手帳

「おくすり手帳」を持っていますか？ なぜ必要なのか、何が便利なのかを知っていただきたいと思えます。

薬局で処方箋を受け取った薬剤師はただ薬を集めているだけではありません。薬には飲み合わせが悪いものや、特定の疾患があると使用できないものがあります。薬剤師は、患者さんにお薬をより安全に使用していただくため、その日の薬について様々な確認をしています。何か問題がある場合は医師に問い合わせを行い、薬の内容が変更されることもあります。

おくすり手帳がない場合、口頭で確認を求め、問題があると医師に問い合わせを行うため、患者さんにはもう一度待つてもらうこととなります。おくすり手帳があると、このような手間を少しでも減らすことができます。

また、おくすり手帳は災害時にも有効活用されます。特に高血圧など慢性疾患がある方で、いつも飲んでる薬をもらいたいとき、「いつもの薬」を正確に確認できるので、災害時であってもスムーズに薬をもらうことが可能となります。

おくすり手帳には薬の内容だけでなく、血液型などを記載するページもあります。住所等の個人情報を書くことに抵抗がある方もいるかもしれませんが、ぜひアレルギーや治療中の病気などの欄は埋めてほしいと思います。特に高齢者の場合、自分が普段どのような症状でどんな薬を飲んでいるのか、詳しく覚えていない方も多いため、治療中やこれまでかかった病気の記載は大変重要となります。

医療機関に行くときだけ持っているのでは、災害や救急搬送等の緊急時に使用できません。手帳を持参して同じ薬局を利用することで、調剤料が安くなることもあります。普段の手帳忘れを防ぐためにも、スケジュール帳に活用できるようにするためにも、スケジュール帳に挟むなどして日ごろから持ち歩くことをお勧めします。

【本多里菜】



U20日本陸上選手権

鈴木が100mで3位、水久保が4位

お家芸、400mリレー復活へ期待!



日本インカレ 男子400mリレー 8位入賞

女子1500m 上田6位

「この経験を糧に駅伝でエースの走りを」(由)

スポーツで街を元気に

城西大学に今年4月に赴任するまでの3年間、石川県の金沢星稜大学で勤務しながらJリーグクラブフットボール「ジェフユナイテッド市原・千葉」の経営や運営にアドバイザーとして、現職を継続中。J3で優勝をしてJ2昇格が決まった時の金沢の街は、大変な盛り上がりで、ツエーゲン金沢の選手がメディアに出演していない日はないくらい、注目を浴びた。

翌年の2016年、J2で一時首位に立ち「金沢旋風」を巻き起こし、スポーツ行政に積極的とは言えない金沢市を動かした当時、Jリーグを保持しておらずサポーターの署名活動をきっかけに、天然芝の専用グラウンドとクラブハウスの建設が実現した。それにより、練習環境は格段に良くなったと、J1昇格が可能となり、急速に進化した。

現在は、J2の4年目で収入規模は少しずつ上昇している。今季は降格の心配もなく、中位の位置でリーグ戦を戦っており、経営と強化ともに成長をしている。

5年前には数十人だったゴール裏サポーターは、現在は1000人以上となった。そのサポーターの応援をまとめている団体が、今年9月に創設された金沢市スポーツ文化活動愛護会だ。サポーター団体がこのような賞を受賞するのは全国的に異例である。主催試合を支えるボランティア団体は、以前は数人での活動が今や数十人規模で運営できるまでとなった。

ツエーゲン金沢が、スポーツのすゝみ、みる支えを、好循環させたことにより街が元気になった。スポーツの力は大きいと実感した。



城西大学に今年4月に赴任するまでの3年間、石川県の金沢星稜大学で勤務しながらJリーグクラブフットボール「ジェフユナイテッド市原・千葉」の経営や運営にアドバイザーとして、現職を継続中。J3で優勝をしてJ2昇格が決まった時の金沢の街は、大変な盛り上がりで、ツエーゲン金沢の選手がメディアに出演していない日はないくらい、注目を浴びた。